

(仮)『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージ(案)

- 背景** ○人口減少、少子高齢化、グローバル化、情報化、技術革新の進展などの急速な社会情勢の変化への対応
- 策定趣旨** ○概ね10から15年先を見据えて、新しい時代を切り拓く人づくりのため、県立高等学校の在り方について、全県的視野で基本的な考え方を示す
- 対象期間** ○令和4年度から令和13年度の10年間

- (参考)「これからの県立高等学校の在り方検討」の全体像
- 令和2年度 滋賀県立高等学校在り方検討委員会設置、審議(～令和3年度)
- ①現行滋賀県立高等学校再編計画(～令和3年度)の検証 ②これからの県立高等学校の在り方について検討
- ※ 産業教育に関しては、論点整理のうえで、滋賀県産業教育審議会を設置して審議
- ※ 高等専門人材育成に関しては、知事部局における議論と連携
- 令和3年度 教育委員会で(仮)『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』策定
- 令和4年度～ 全県的視野での魅力化の具体策の検討や実施
- ※ 必要に応じて、地域の関係者等で構成する(仮)地域別協議会を設置し、地域の意見を踏まえて、個別の計画を策定、実施

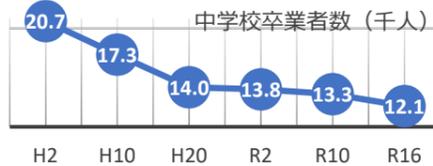
これまでの高校改革  
主な取組と成果

- H9～ 総合学科設置(国際情報・長浜北星等)
- H15 県立中高一貫教育校設置
- H18 県立普通科高校通学区域全県一区制  
→ 主体的学校選択、特色ある学校づくり(H28検証)
- H24 県立高校再編計画策定  
・統合新校設置(長浜北・彦根翔西館)  
・総合単位制高校設置(能登川)  
・職業系専門学科改編(農業・工業)等
- R1 湖西地域の県立高校魅力化方針策定(高島・安曇川学科改編)
- R2 国際バカロレア設置(虎姫)
- <現行再編計画の成果と課題>
- 魅力と活力ある学校づくりが進展
- 人口減少地域の更なる魅力化が必要
- 計画策定時の地域の理解 等

県立高校をとりまく現状と課題

◆生徒数の減少

- ・H2ピークと比べて現在▲7,000人34%減
- ・15年後は更に▲1,700人H2から42%減
- ・特に人口減少地域の学校の活性化  
→更なる魅力化が必要



◆社会情勢の変化

- ・少子高齢化、人口減少社会の到来
- ・第4次産業革命
- ・グローバル化
- ・withコロナ、afterコロナと新しい生活様式

◆国の動き

- ・学習指導要領改訂(令和4年度～)  
主体的・対話的で深い学び
- ・新時代に対応した高等学校教育の在り方

将来の社会の姿

- ◇持続可能な社会の実現(SDGsの目標)
- ◇多様な価値観が尊重される社会
- ◇第4次産業革命を通じたSociety5.0の実現
- ◇人口減少と高齢化の更なる進行
- ◇大規模災害などの発生リスク
- ◇コロナ禍を経た新しい生活様式の定着 等
- 想像はできるが予測できないことが起こる

高校への希望や期待

※今後、アンケート等により把握・充実

◇生徒の立場から

- ・新しいことに挑戦し、世界を広げたい
- ・好きな分野への進学をめざしたい
- ・部活動や生徒会活動を頑張りたい
- ・もう一度基礎から学び直したい
- ・友達と楽しい高校生活を送りたい 等

◇保護者の立場から

- ・じっくりと子供の可能性を拡げてやりたい
- ・やりたいことをとことんやらせたい
- ・社会で生きるたくましさをつけてほしい 等

◇地域社会の視点

- ・地域社会で活躍する人材を育成してほしい
- ・地域に活気を生み出してほしい 等

◇企業の視点

- ・グローバルな時代に対応できる人材、専門性を身につけた人材、業界に必要な人材を送り出してほしい 等

◇教職員の立場から

- ・生徒一人ひとりの成長を感じたい
- ・授業力や指導力を発揮し更に成長したい 等

これからの滋賀の県立高校の在り方に関する基本的な考え方

本県教育の基本理念

未来を拓く心豊かでたくましい人づくり

育成すべき生徒像

生きる力(自立する力・伝える力・協働する力・創造する力)がある

高等学校の役割

- ・生きる力を育む場
- ・好奇心や探究心を更に発展させる場
- ・「答えを見つける」から「課題を見つけて解決する」教育の場へ

魅力化の視点

多様性のある社会、人口減少社会、新しい生活様式への対応を、小・中・高・大・社会の連続性の中で捉え、持続可能な形で実施する

目指す姿

- 高校別 ◆県域全体

- 生徒が自ら主体的に学び「生きる力」をつけることができる  
→◇すべての生徒に自分を高める学びが提供されている  
→◇コミュニケーションを通じて深め発見できる学びが提供されている
- 生徒が世界につながり活躍するための力をつけることができる  
→■グローバル人材や科学技術人材が育成されている  
→■大学等と連携した高度な専門的学びが提供されている  
→◇ICTを活用した対話的・協働的な学びが実現できている
- 生徒同士が切磋琢磨し成長できる  
→■学校行事や部活動が活性化している  
→◇学校でこそ育まれる人と人とのつながりを意識した空間が提供されている
- 場所や時間を選ばない学びができる  
→◇ICTや外部人材を活用し、所属する学校の枠にとらわれない柔軟で多様な学びが提供されている
- 生徒が社会から学び自らの進路を考えることができる  
→■地域の教育資源や人々と関わる学びが提供されている  
→■産業界と連携した学びが提供されている
- 障害のある者となない者が互いに学び合い互いを尊重できる  
→◇共生社会の実現に向けた教育が着実に進んでいる
- 生徒が自らに合った学びを選択できる  
→■県立高校ならではの魅力や特色が人々に理解されている  
→◇県内のどの地域でも様々な学びが提供されている  
→■学び直し、日本語学習、不登校等に対応する学びが提供されている  
→◇教員が生徒一人ひとりに愛情をもって向き合いサポートできている

取組の方向性の例

- ◇主体的・対話的で深い学びの実現
- ◇普通科の特色化や職業系学科の高度化
- ◇オンリーワンの学校づくり
- ◇学校規模を踏まえた活性化策検討
- ◇STEAM教育の推進
- ◇双方向のオンライン授業や遠隔授業の日常的实施
- ◇個別最適化された学びの実現
- ◇キャリア教育の充実
- ◇社会に開かれた教育課程の実現
- ◇地域社会や産業界を支える人材育成
- ◇インクルーシブ教育システムの充実
- ◇企業や大学などが持つ資源の活用
- ◇必要な教育のための施設・設備の充実
- ◇各高校の魅力や特色の発信強化
- ◇多様な学習ニーズに対応した課程・学科、公立私立の役割分担
- ◇成年年齢の18歳引下げに対応した教育の充実
- ◇学校運営体制の充実検討
- ◇教員のよりよい働き方検討 等